

都市再生整備計画 事後評価シート
古川地区

平成24年3月

宮城県大崎市

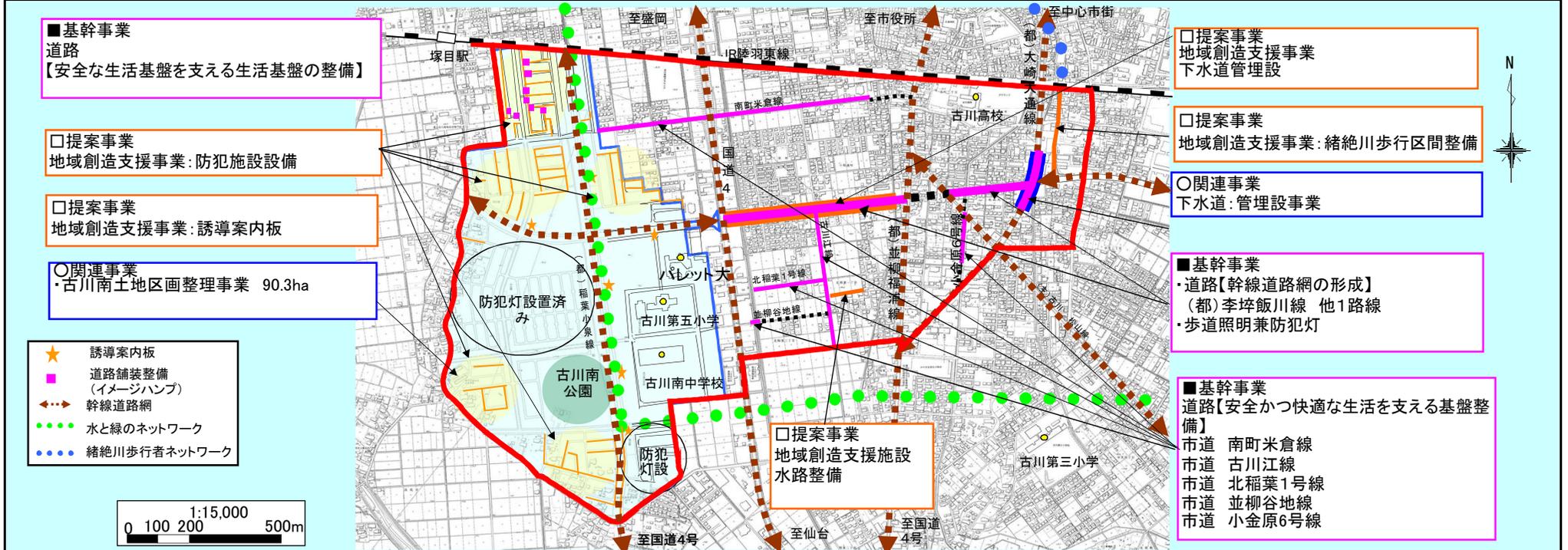
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮城県		市町村名	大崎市		地区名	古川地区			面積	205ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	780.2百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路(李埜飯川線他1路線整備事業)、道路(南町米倉線整備事業、古川江線整備事業、北稲葉1号線整備事業、並柳谷地線整備事業、小金原6号線整備事業、道路舗装整備事業)											
		提案事業	地域創造支援事業(防犯灯整備事業、誘導案内板整備事業、下水管理設事業、水路整備事業、緒絶川歩行空間整備事業、事業活用調査(事業活用調査分析)、まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援事業))											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	なし		中心市街地部に商業業務一体型の施設「リオーネ古川」が立地したことにとともに中心市街地部で働く市民の子育てを支援するため、より利便性の高い中心市街地に子育て支援施設を立地した。				計画されていた子育て支援施設が地区外の中心市街地に立地したこと。また、引き続き地区内で活動する団体に現行通り支援を継続することから地域活動参加者数の指標には関係するが、数値目標は据え置く。					
	新たに追加した事業	基幹事業	なし											
提案事業		子育て支援NPO団体支援事業												
交付期間の変更	当初	平成19年度～平成23年度		変更		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	地区内居住者数	人	6,560	H18	7500	H23	モニタリング	評価値	8,168	○	あり なし	安全で安心なまちづくりと幹線道路の整備に伴い公共施設や商業施設が立地し、良好な住空間と利便性を兼ね備えた魅力ある地区となり居住者数が増加した。	平成24年4月
	指標2	中心市街地へのアクセス時間	分	12	H18	7	H23			7	○	あり なし	道路の早期暫定供用開始により早い段階から市民の中心市街地へのアクセスの向上が図られた。	平成24年9月
	指標3	地域活動参加者数	人/回	80	H18	150	H23			164	○	あり なし	若い世代が花いっぱい運動へ参加することにより地域への愛着や地域住民の交流が生まれ地域活動への参加者数が増加した。	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1							モニタリング	評価値					
4) 定性的な効果発現状況	<p>道路の整備に伴いこれまで道路を2度横断する必要があった通学路が横断無しで通学可能になり子供達が安全に安心して通学できる環境となった。</p> <p>多くの公共施設の集約や商業施設等の立地により利便性の高い魅力的なまちづくりが行われている。</p> <p>道路の整備に伴い走行環境が改善され振動や騒音が軽減された。</p> <p>地域コミュニティの活動が活性化し新たに防犯パトロールや交通安全運動が実施されるようになった。</p>													
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	住民参加プロセス	「花いっぱい運動」への活動支援	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				市民の自主的な活動であり、これからも活動が継続するよう後方支援を行っていく。							
	持続的なまちづくり体制の構築	町内会を中心に自主的に活動が開始された。	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した ● 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				防犯パトロールや花いっぱい運動の活動等を通じて住民が自発的に実施している活動であり、今後の活動継続を後方支援する。							

様式2-2 地区の概要

古川地区(宮城県大崎市) 都市再生整備計画事業の成果概要

	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標 中心市街地との連携を図り、利便性が高く、安全・快適で豊かな生活環境が整備され地区住民が一体となりいきいきと暮すまちづくり 目標1 安心かつ快適で豊かな生活環境の形成 目標2 中心市街地へのアクセス向上 目標3 住民がいきいきと暮すまち	地区内居住者数	単位:人	6,560 H18	7,500 H23	8,168 H23
	中心市街地へのアクセス時間	単位:分	12 H18	7 H23	7 H23
	地域活動参加者数	単位:人/回	80 H18	150 H23	164 H23



まちの課題の変化

- ・都市再生整備計画事業の実施により「安全・安心」で生活利便性の高い地区となったことが居住人口の増加に繋がった。一方で、人口の集中や公共施設が集約する中、公共交通の整備と冬期の歩道除雪が今後の課題としてあげられる。
- ・都市計画道路李塚飯川線の整備により中心市街地へのアクセス時間が短縮され交通利便性の向上が図られた。また、商業施設や公共・公益施設の集約が図られてきている。
- ・花いっぱい運動を通した住民交流活動により美しい街並みが維持されており、今後も継続した活動が望まれる。
- ・人口の急激な増加に伴い子供達が非行に走らないよう地域コミュニティの充実が望まれる。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- 公共交通の整備
 - ・地区内には、バス路線がなく住民の交通手段は、「自動車」、「自転車」、「徒歩」などが主な交通手段となっている。そのため自ら自動車などを運転する事の出来ない高齢者や子供、障害者などは、中心市街地及び主要施設への移動は、家族やタクシーなどへの依存がほとんどで移動手段が限定されている状況にあり、安心して安全に移動できる公共交通の整備を推進する。
- 中心市街地との連携強化
 - ・本地区と中心市街地はアクセスが大きく向上し連携が強化されたことから、地区内及び中心市街地の交流人口拡大に向けて連携したまちづくりを行う。
- 住民活動
 - ・住民との協働による住民参加型のまちづくりを実施する。
 - ・住民が中心となった地域活動を促進する。